

夢舞台 スマイル輝け

女子アイスホッケー日本代表

来年2月に韓国で開かれる平昌冬季五輪の女子アイスホッケー日本代表（スマイルジャパン）に十勝から3選手が選ばれ、地元関係者は喜びに沸いている。代表入りしたのは、フルタイムシステム御影グレッズのFW小野粧子選手（36）とGK近藤真衣選手（25）、帯広レディースのDF志賀葵選手（18）。3選手の活躍によるメダル獲得や、競技の盛り上がりも期待している。

十勝3選手にエール

会見後、笑顔で集合写真に収まる小野選手。金野和彦撮影



「限られたチャンスを生かしたい」と闘志を燃やす近藤選手



先輩たちから肩をもらいリラックスした表情を見せる志賀選手



祝賀看板早くも

清水・芽室

アイスホッケーの町・清水町では、町内で活動するグレッズから2選手が代表入り。グレッズの細田秀夫

監督（61）は結成30年の節目にチームから初の五輪選手誕生を喜び、「アイスホッケーを盛り上げるためにも結果を出してほしい。チャンスはあるのでメダルを期待したい」と話す。グレッズの選手や関係者からは現地の応援を計画している。

清水町は年内にも、役場庁舎や町アイスアリーナなどに懸垂幕を掲げる。また競技振興のため、子どもたちの五輪派遣や御影地区でのパブリックビューイングも検討している。阿部一男町長（64）は「清水から冬季五輪選手が出たのは初めてで大変名誉。最大限応援し、盛り上げたい」。

小野選手が勤務するそば店「紀山」芽室店では6日午後、店舗前に五輪出場を祝う看板を掲げた。太田博樹代表（48）は「引退から復活し、仕事をしながら示



小野選手の出場が決まり、祝福の看板を掲げる紀山の太田代表

朝日に照らされ、色づく十勝川の川霧（7日午前6時50分ごろ、音更町の十勝が丘展望台から）

陸別氷点下
厳寒の「大雪」
23.8



7日は二十四節気の一つ「大雪（たいせつ）」。

最低気温はほかに、幕別町糠内氷点下21.6度、帯広空港同21.5度、大樹同20.3度、音更町駒場同20度と、陸別を含め5地点で同20度以下に。帯広は同17度だった。この寒さで十勝川では川霧が発生。音更町十勝川温泉の十勝が丘展望台からは、朝の光でオレンジ色に染まる霧が見えた。

帯広測候所によると、7日夜の十勝地方は低気圧の通過で雪が降る見通し。8日は曇りのち晴れで、明け方まで雪の見込み。帯広の予想最低気温は氷点下11度。（折原徹也）

ツケを続けた選手で尊敬する。ホッケー人生の集大成のつもりで思いきりやってほしい」と話した。同店は8日から、200

チーム最年少で代表入りした帯広三条高3年の志賀選手にも注目が集まる。有力候補だった妹の紅音選手（帯広三条高2年）は惜しくも代表を逃したが、姉妹が所属する帯広レディースの大道弘樹監督（56）は、チームで守備の要として活躍する2人のこれまでの奮闘をたたえる。志賀選手には「自信と誇りを持ち、自分よりも年下の選手たちに目標とされるようなプレー

をしてほしい」と願う。さらに、「2022年の五輪では、姉妹そろって日本代表になってくれると信じている」と強調する。帯三条高は20日にも壮行会を開く予定で、狩野康弘校長（58）は「学校としても応援したい。試合では積極的にプレーしてほしい」とエールを送る。

20日にも壮行会

帯三条高

「十勝3選手が五輪の舞台で日の丸を背負って戦う姿は、十勝のジュニアたちに計り知れないインパクトを与える」。帯広アイスホッケー連盟会長で、道アイスホッケー連盟副会長を務める山下司さん（62）は競技人口拡大の好機と捉える。さまざまな思いを含め、関係者は声援を送る。（池谷智仁、内形勝也、松田亜弓、小寺泰介）